

環境由来の健康問題の中でも
注目されている「アレルギー疾患」

当事者でなくても……！

本当は多くの人が罹患している
アレルギー疾患

我が国全人口の約2人に1人は何らかのアレルギー疾患に罹患しているといわれる昨今。さらにはシックハウス症候群や化学物質過敏症など化学物質による健康への影響が問題視される現代社会。こうした環境由来の健康問題がクローズアップされる一方で、こうした問題に対して身近に感じない、他人事を感じるなどの声が聞こえるのも事実です。

最悪、死にもつながってしまう
「食物アレルギー」

一般的にアレルギーの中で身近で知られるものには、「花粉症」や「アレルギー性鼻炎」などが挙げられますが、実際にアレルギー問題として社会を騒がせている筆頭は「食物アレルギー」です。これはアナフィラキシーショックによって死に至る恐れがあることや、乳幼児が罹患するリスクの高さ、保育園や幼稚園、小学校で事故につながる恐れが高いなどの理由が考えられます。

そこにある認識の差

しかし、この問題に直接関係するのは乳幼児の両親、子供を預かる側の園・学校などでそこに関わらない大多数にとっては実は関心の薄い問題となりがちです。さらに、アレルギーに対する認識が低い、いわゆる団塊の世代より上の世代は、知識も乏しくその存在にさえ否定的な考えの割合が高いように見受けられます。

社会全体でアレルギーに対する
意識を共有する必要性

こうした現状の中でアレルギーの当事者やその家族がいくらその辛さを訴えたとしても、同じ悩みを持つもの以外にはなかなか理解が広がらないため、なぜ理解してもらえないのか、なぜ分かってももらえないのかといった声が増えています。

一方で、一部の当事者やその家族の声が行き過ぎて対応を拒む、前向きに協力しにくいといった周囲の声を耳にするのも事実です。この辺りを冷静に分析していく時期に差し掛かっています。

環境由来の健康問題に対する認知度



情報スペース